

2021 年 2 月 10 日

研究に関する情報公開文書

済生会守山市民病院研究倫理審査委員会受付番号：【1】

研究課題：回復期リハビリテーション病棟入院患者における身体機能、日常生活活動、
練習効果、病棟生活、リスクの分析

研究責任者：伊藤慎英（済生会守山市民病院）

1. 研究の対象

2019 年 12 月 1 日～2030 年 3 月 31 日に当院に入院された患者さん

2. 研究目的・方法・研究期間

<概要>

回復期リハビリテーション病棟に入院する患者さんは、診療の中で、さまざまな評価や検査を受けて頂きます。例えば、筋力、関節可動域、日常生活活動の能力などがあります。評価結果から、問題点の把握、帰結（最終的な結論・結果のことを指す）の予測、治療内容の選定、治療の効果判定などを行います。これらは、リハビリテーション効果を最大にするために必須となるものです。本研究は、これら評価で得られた結果を、後方視的に分析することで、帰結予測の精度を高めること、有効なリハビリテーションを検討すること、評価結果の指標の関係性を明らかにすることを目的としています。また、当院ではリハビリテーション効果を高めるさまざまな取り組みを行っております。そのような取り組みの効果について明らかにすることも目的としています。リスクの分析では、入院中の転倒や急変などの事例やヒヤリとした体験はレポートにまとめて報告し、院内で医療安全についての議論をします。このレポートを後方視的に分析し、発生しやすい事例を把握し、医療事故を未然に防ぐことをしていきます。

<評価の方法>

日常生活活動は、入院から 2 週間隔で評価します。また、その他の項目は、必要に応じて評価を行います。これらはいずれも通常診療に必要な評価です。

<安全面と倫理的配慮>

臨床評価は通常診療で必要となる評価を行い、それを後方視的に分析するため、患者さんが不利益を被る危険性は極めて少ないと考えています。

<研究期間>

倫理委員会承認日～2030 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

a. 基本情報

年齢、原疾患、既往歴、発症日、入退院日、練習時間数、脳画像情報、レントゲン画像情報、意識状態、栄養状態、社会資源情報、使用装具や補助具等

b. 評価の情報

日常生活活動、認知機能、歩行能力、運動麻痺に関する評価、筋力、関節可動域等

c. インシデント、ヒヤリハットレポートの情報

当該職種、経験年数、所属、事故レベル、発生日、転倒リスク評価、日常生活活動、認知機能、事故種類、発生原因、事故の状況等

4. 外部への試料・情報の提供

なし

5. 本研究実施に係る利益相反

なし

6. 研究組織

研究機関の名称：済生会守山市民病院

研究機関の長：済生会守山市民病院 病院長 野々村和男

研究責任者：済生会守山市民病院 リハビリテーション技術科 主任士長 伊藤慎英

7. 問い合わせ先

済生会守山市民病院 総務課

電話番号：(代表) 077-582-5151